

令和6年度 ゼミ・研究室等地域貢献推進事業 地域課題一覧（提案課題）

	課題提案者	提案課題
提案No1	伊豆市	“大学生が考える” 「修善寺虹の郷」 魅力度向上 プロジェクト
提案No2	伊豆の国市	若者に有効な選挙啓発について
提案No3	富士市	脱炭素に向けたライフスタイルの転換を進める効果的な手法
提案No4	富士市	地下水マネジメントに向けた富士市の地下水経済的価値の見える化について
提案No5	富士市	松野地区における特定外来生物アライグマの生息分布調査
提案No6	富士市	A1による要介護認定の2次判定及び介護認定審査会の在り方の調査研究
提案No7	静岡市	子どもの遊び場空間（清水駅西口、旧西河内小学校）に、必要な機能や効果検証及び効果的な情報発信
提案No8	静岡市	由比のまちづくりについて
提案No9	静岡市	大谷・小鹿地区における地域資源を活用したコミュニティ事業の推進
提案No10	磐田市	地域活性化活動における「ご当地キャラクター」の効果について
提案No11	静岡県	三保半島の魅力的な空間創出に向けた保全・活用方策の研究
提案No12	静岡県	東静岡駅周辺地区の文化とスポーツによる賑わい創出に向けた方策について
提案No13	静岡県	高齢化社会における地域活性化策についての実践的検証
提案No14	静岡県	自然系博物館（ふじのくに地球環境史ミュージアム）の認知度向上と活性化策
提案No15	静岡県	豊岡地区における農村RMOの形成 ～定住人口を増やす取組について～
提案No16	静岡県教育委員会	高校生が国内に居ながらにできる国際交流
提案No17	静岡県教育委員会	高校生の「本県の特性を踏まえた探究活動を伴う留学」を実現する方策の検討
提案No18	静岡県教育委員会	多文化共生型家庭教育プログラムの開発について

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

一次締切:1月31日(水) 二次締切 2月29日(木)

会員名	伊豆市	課題区分	提案課題
課題タイトル	“大学生が考える” 「修善寺虹の郷」魅力度向上 プロジェクト		

課題の概要(背景や理由等)	「修善寺虹の郷」は花とSLをコンセプトに四季を通じて自然との触れ合いが出来るよう設置された施設(都市公園)であり、園内イルミネーションやもみじのライトアップ、花火の打ち上げやキッズコスプレなど年間を通じて多様な事業を展開し、集客UPを図っているものの、入園者数は頭打ちで収支も厳しい状況である。 上記状況を打破するため、多様な切り口から本施設の魅力向上に向けた取組を進め、更なる入園者数の増加や収益UPを図りたい。
希望する調査研究内容や期待すること	大学生の視点から、本施設の更なる魅力UP・集客力向上に向けた幅広い提案や周辺施設とも連携した地域振興策のアイデア、インバウンドの更なる取り込みに向けた提案に期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・シダックス大新東ヒューマンサービス(株)【施設の指定管理者】 ・伊豆市 ・観光協会、旅館組合
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・施設の利用支援 ・関係団体との調整

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業部 観光商工課 観光施設管理スタッフ
電話番号	0558-72-9911
E-mail	<a href="mailto:kanko-s@city.izu.shizuoka.jp">kanko-s@city.izu.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	下村 亮介

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	伊豆の国市	課題区分	提案課題
課題タイトル	若者に有効な選挙啓発について		

課題の概要(背景や理由等)	令和4年参議院議員通常選挙における伊豆の国市全体の投票率は51.27%で、約半数の人が投票していない。特に、18~29歳の投票率は30.11%と極めて低い。令和7年4月には市長選挙と市議会議員選挙の執行が見込まれており、従来の広報誌や街頭広報とは異なる手段による若者への選挙啓発を検討している。
希望する調査研究内容や期待すること	若者が選挙に興味を持ち、投票行動に移すための有効な選挙啓発に関して、新しい手法の提案や助言などが得られることを期待したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆の国市選挙管理委員会、伊豆の国市明るい選挙推進協議会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室・備品の貸与、公式HP・SNSによる情報発信、選挙人名簿を使用した対象者の抽出

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	選挙管理委員会(総務部行政経営課内)
電話番号	055-948-1429
E-mail	<a href="mailto:gyousei@city.izunokuni.shizuoka.jp">gyousei@city.izunokuni.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	内田 成重

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	提案課題
課題タイトル	脱炭素に向けたライフスタイルの転換を進める効果的な手法		

課題の概要(背景や理由等)	富士市は、2050年ゼロカーボンシティを目指しており、この動きは全世界で進んでいる。家庭や企業活動においても脱炭素の動きが求められる一方、家庭や中小企業の脱炭素に向けた取り組みについては、きっかけがなかなか見いだせず実施に至っていない状況である。
希望する調査研究内容や期待すること	脱炭素に向けたライフスタイルの転換を進める効果的な手法 国の温暖化対策計画では、家庭部門において2030年に66%(2013年比)の二酸化炭素の削減が求められている。 これから2050年に生活の主役となる人たちにゼロカーボンの考え方を波及させる効果的な手法について調査研究をお願いしたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	市内中学校・高校
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	富士駅等からの公用車による送迎

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境部環境総務課
電話番号	0545-55-2901
E-mail	<a href="mailto:ka-kankyousoumu@div.city.fuji.shizuoka.jp">ka-kankyousoumu@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	堀 由季子

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	提案課題
課題タイトル	地下水マネジメントに向けた富士市の地下水経済的価値の見える化について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>地下水は私水(土地所有権による)として扱われ、過剰汲み上げによる塩水化や地下水位低下等の地下水障害が発生したため、規制や協議会の発足等による監視と適正利用が促進され、産業の発展と地下水保全が維持されてきた。</p> <p>一方、地下水情報の「見える化」が進んだことで、地下水も地表水(河川水)と共に水循環の一つとして総合的に管理すべきという解釈が進み、2014年4月に「水循環基本法」が公布され、2021年6月の法改正により地下水管理の位置付けがさらに強くなった。</p> <p>このような時代の変化・流れに対応するために、水質や水位等の観測と同様に、「地下水の恩恵」を見える化し、地域住民を含むステークホルダー(利害関係者)に、無料(タダ)だと思っている地下水からどれだけの恩恵を受けているかを数値として「見える化」することで、実感してもらうことが必要と考えている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>大学等の専門性や知見を活かし、経済価値の算出やフィールド調査等を行うことにより、ゼミ学生の実習経験の場になるとともに、本市における地下水マネジメントの基礎資料として今後の活用が期待できる。</p> <p>①地下水の恩恵を数値化 経済価値:産業別、利用形態別等で金額(経済価値)を算出し、地下水が生み出す価値を「見える化」する。 →井戸所有者、地下水利用者に恩恵を実感してもらうことにより、地下水マネジメントに向けた合意形成が進めやすくなる。</p> <p>②地域の文化や信仰の見える化 地下水は、水神社や湧水のような地域の文化や信仰と密接しており、文化的な視点による地下水(湧水・水神社等)マップの作製等による「見える化」を図る。 →幅広いステークホルダーからの合意形成が可能となる。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	岳南地域地下水利用対策協議会(事務局:富士市環境部環境保全課)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水位、塩水化及び湧水の観測データの情報提供</li> <li>・井戸位置図の提供など</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境保全課水質担当
電話番号	0545-55-2776
E-mail	<a href="mailto:ka-kankyuhozen@di.city.fuji.shizuoka.jp">ka-kankyuhozen@di.city.fuji.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	石川 浩之

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	提案課題
課題タイトル	松野地区における特定外来生物アライグマの生息分布調査		

課題の概要(背景や理由等)	アライグマは、本来の生息地域から人為的に国内に持ち込まれ、野生化した外来生物で、生態系や農作物等へ深刻な被害をもたらすことから、外来生物法により、特定外来生物に指定されており、主に市内西部地域(特に松野地区)において、農作物の採食や家屋への侵入等の被害が報告されている。 今後、生息数が増えていくと生態系等への被害が増大するため、防除の一環として捕獲対応しているものの、現状では、生息数・分布を把握できていない。
希望する調査研究内容や期待すること	松野地区におけるアライグマの生息数・分布の調査(聞き取り調査、痕跡調査、カメラ調査、捕獲調査等) ⇒生息数と分布を推計・推測することで、今後の効果的な捕獲につなげる。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	庵原猟友会(松野分会)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	備品貸与 ・センサーカメラ(2台 ※本課で未使用時) ・箱ワナ(1個 ※本課で未使用時) 捕獲個体処分の猟友会への依頼

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境保全課 自然保護担当
電話番号	0545-55-2773
E-mail	<a href="mailto:ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp">ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	西澤 英人

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	提案課題
課題タイトル	AIによる要介護認定の2次判定及び介護認定審査会の在り方の調査研究		

課題の概要(背景や理由等)	<p>介護保険制度における要介護認定の仕組みは介護保険法令に規定されており、訪問調査結果、主治医意見書に基づくコンピュータによる一次判定、医師、看護師、介護支援専門員、介護福祉士等からなる介護認定審査会委員による二次判定により要介護度を認定する。二次判定では、一次判定の結果に対し、訪問調査結果に記載された特記事項や主治医意見書等から、一次判定結果の見直しの必要性や認定有効期間等について審査・判定する。</p> <p>介護認定審査会は、5人を標準とする合議体により審査・判定が行われ、本市では令和4年度17合議体、116名の委員を確保し、227回の審査会を実施しており、委員報酬は19,840千円となっている。委員は医師等の専門職であるため、認定審査会委員となることにより業務負担が増すことから、多くの委員を確保しなければならず、委員の確保には苦慮している状況にある。</p> <p>また、保険者の取り組むべき事業の1つとして「要介護認定の適正化」がある。一次判定から二次判定の軽重度変更率の地域差及び保険者内の合議体間の差等について、全国の保険者と比較した分析等を行い、要介護認定調査の平準化に向けた取組を実施するとされている。</p> <p>近年の審査件数は年間9,000件程度であり、介護保険制度が始まった平成12年から現在まで、審査・判定のデータが蓄積されている。また、介護保険法令に基づく審査、判定であるため、全国規模では、膨大な審査、判定のデータが存在すると思われる。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>介護認定審査会委員による2次判定を、AIによる2次判定にすることの調査研究。AIによる2次判定が可能となった場合の介護保険法令に規定された介護認定審査会の在り方に関する調査研究。</p> <p>AIによる2次判定が実現可能となった場合には、個々の委員の審査、判定基準のあいまいさが無くなり、適正な判定が期待できる。また、委員の確保を最小限にすることができ、委員となる医師等の専門職の負担軽減や、委員報酬などの大幅な経費削減が期待できる。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士市介護認定審査会委員 富士市介護保険課
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	介護保険課 認定担当
電話番号	0545-55-2765
E-mail	<a href="mailto:ho-kaigo@div.city.fuji.shizuoka.jp">ho-kaigo@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
5年度担当者	清 達也

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡市	課題区分	提案課題
課題タイトル	子どもの遊び場空間(清水駅西口、旧西河内小学校)に、必要な機能や効果検証及び効果的な情報発信		

課題の概要(背景や理由等)	<p>静岡市では、子育て世帯から、雨天時等の子どもの遊び場整備を求める声が多くあり、これを受けて、清水駅前銀座商店街の空き店舗とアーケード下を活用した子どもの遊び場空間を整備し、令和6年8月頃の運営開始を予定している。遊び場の設置・運営は、商店街・自治会・まちづくり団体等による実行委員会が担い、市は実行委員会への負担金で下支えする。</p> <p>空き店舗とアーケード下を活用した遊び場は全国的にも事例が見られず、空き店舗は遊び場だけでなく、家庭・学校以外の子どもの第三の居場所ともなり得ると考えられる。こうしたことから、子どもの健全育成のための遊び場・居場所として、どのような機能・設備などが必要となるのか研究し、令和7年度以降の運営に反映させ、子どもの社会性・協調性などの生きる力を高めるとともに、子育て世帯の生活満足度を高めていきたい。</p> <p>また、遊び場空間としては、旧清水西河内小学校の体育館等の活用も予定しているが、中山間地での遊び場空間整備は、利用者の集客のため、情報発信などが課題である。商店街と中山間地ともに遊び場の整備後、多くの子育て世帯に利用していただくよう、遊び場が整備されたこと、イベントなどを周知していくにあたり、従来の広報手法にとらわれず、より効果的な情報発信の手法を研究していきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>・遊び場の利用者及び一般の子育て世帯へのアンケート・ヒアリング等により、利用状況や利用したい、利用したくない理由、子育て世帯向けの効果的な情報発信の方法を明らかにする。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>・地元の自治会・子供会、商店街団体 ・市内の子育て支援センターやこども園を利用する世帯</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>・地元の自治会・子供会、商店街団体など関係団体の紹介 ・市内の子育て支援センターやこども園を利用する世帯へのアンケート調査協力</p>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	子ども未来局子ども未来課子育て支援推進係
電話番号	054-354-2607
E-mail	<a href="mailto:kodomomirai@city.shizuoka.lg.jp">kodomomirai@city.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	浅野 滋規、佐野 千夏



## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡市	課題区分	提案課題
課題タイトル	由比のまちづくりについて		

課題の概要(背景や理由等)	<p>「由比まちづくり会議(任意団体)」で、10年後の由比を見据えたまちづくりビジョンの目標の1つに「年間を通して観光客で賑わいたい」と設定している。</p> <p><b>【現状】</b>          由比地区内には「桜えび」「さった峠」「浜石岳」「旧東海道由比宿」などの地域資源があり、一定の観光客が毎年、由比を訪れている。          しかし、目当てのスポットを訪れた後、他のスポットや由比を周遊することなく帰ってしまうことが多い。</p> <p><b>【課題】</b>          ①桜えびの漁期にしか観光客が訪れない。          ②由比での滞在時間が少ない。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>上記課題解決へ導く、由比のまちづくりへの提案や新たな目線からの考察をフィールドワークから求めてもらうこと。(由比まちづくり会議と連携の上、実施すること)</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>①由比まちづくり会議(由比地区内の課題をもとに、由比地区内のまちづくりを検討している任意団体)          ②ふれあい由比(由比地区内のまちづくり全般に関する事業を推進しているNPO法人)          ③由比連合自治会          ④その他、漁協、農協、商工振興会等</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>清水区役所蒲原支所会議室の利用、上記連携団体等の紹介</p>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	清水区役所蒲原支所地域振興係
電話番号	054-385-7730
E-mail	<a href="mailto:smz-kambara@city.shizuoka.lg.jp">smz-kambara@city.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	鈴木翔太 主事

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡市	課題区分	提案課題
課題タイトル	大谷・小鹿地区における地域資源を活用したコミュニティ事業の推進		

課題の概要(背景や理由等)	<p>大谷・小鹿地区では、東名スマートインターチェンジ開通に伴う土地区画整理事業が進んでおり、ハードとソフトの両面からまちづくりを行うため、令和4年7月に公民連携の大谷・小鹿地区まちづくり検討会議を設立した。当会議では、エネルギー、モビリティ、コミュニティ、ウェルネスの4つの視点で将来ビジョンを策定し、具体的な取組みを会議参加者や協力組織によって実施していく予定である。</p> <p>その中で、地域住民へのヒアリングの結果から、コミュニティ分野がまちづくりにおいて最も重要であるとの意見が出ている。昨年度から、コミュニティ事業の一環として大谷・小鹿地区まちづくり検討会議が主催となり、年に一度、子どもを対象としたまちづくりイベントを開催している。今までは、子どもが体験することができる内容の企画や、ある程度集客が見込めるメインとなる企画が少なく十分な参加者が集まっておらず、イベントの目的である、「参加者が地域に誇りと愛着を持つこと」「参加者同士で交流しコミュニティの活性化につなげること」の実現が十分に果たせていない。そこで、イベント参加者が地域の魅力に触れ互いに交流することで、地域コミュニティ活性化につながるような、地元大学による新たな企画の実施が求められている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷・小鹿周辺地区の子どもを対象とした地域イベントへの出展を行い、イベント参加者が地域のことを知り、参加者同士で交流ができるような企画の実施。</li> <li>・地域資源の効果的な活用方法の検討、試行。</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>【団体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷・小鹿地区まちづくり検討会議</li> <li>・大谷学区自治会連合会</li> <li>・富士見学区自治会連合会</li> <li>・NPO法人ESUNE</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>【可能な支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷・小鹿まちづくり推進課事務所会議室の提供</li> <li>・地域情報の資料提供</li> <li>・イベント会場としての地元小学校やスポーツ広場等の提供</li> <li>・各種事業者、団体、地元自治会との連携・調整支援</li> <li>・静岡市役所庁内各課との連携・調整支援</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	都市局 都市計画部 大谷・小鹿まちづくり推進課 まちづくり推進係
電話番号	054-238-1981
E-mail	<a href="mailto:ooya-oshika@city.shizuoka.lg.jp">ooya-oshika@city.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	遠藤 駿

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

一次締切:1月31日(水)二次締切 2月29日(木)

会員名	磐田市	課題区分	提案課題
課題タイトル	地域活性化活動における「ご当地キャラクター」の効果について		

課題の概要(背景や理由等)	「ご当地キャラクター」や「ゆるキャラ」と呼ばれる、地方自治体や企業のキャラクターは、ゆるキャラグランプリをピークにブームが去ったと言われている。しかし、イベントPRや出演時には一定の人気があることから、ご当地キャラクターはブームが去っても活動の場が必要だと考える。このことから、ご当地キャラクターは地域にとってどのように役立つのか、またはどのように役立つべきなのか調査研究を依頼したい。
希望する調査研究内容や期待すること	多様なSNSツールが活用される中で、閲覧数や広告効果が期待できるツールや情報発信方法は何か、大学生ならではの視点で調査研究してもらいたい。 また、磐田市イメージキャラクター「しっぺい」の更なる地域ブランド化を目指し、広告効果や経済効果が見込めるような施策を期待する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	NPO法人しっぺい応援団「ぺいぺいおーっ」 磐田市観光協会 株式会社シーピーエス
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与 関連団体の紹介 しっぺい出演に係る必要な資料提供

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	磐田市役所経済観光課 商業観光グループ
電話番号	0538-37-4819
E-mail	<a href="mailto:shoko@city.iwata.lg.jp">shoko@city.iwata.lg.jp</a>
5年度担当者	主事 平松 優佳

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	提案課題
課題タイトル	三保半島の魅力的な空間創出に向けた保全・活用方策の研究		

課題の概要(背景や理由等)	世界遺産の三保松原のある三保海岸。三保の魅力は松原だけでなく、海岸にそって広がる多様な自然環境に、歴史ある灯台等の魅力がある。しかし、観光客は羽衣の松周辺の一点に集中し、三保半島の魅力を伝えきれていないという課題がある。また、広大な砂浜は、希少植生が見られるものの、ツル植物や外来種の繁茂が進んでいる。三保半島の魅力的な未来を創造するため、現状を把握し、夢ある未来に向けたビジョンを描くことが必要と考える。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三保半島の魅力的な空間創造を見据えた現状課題(外来種・貴重種の把握・この場所ならではの景観)の把握と、解決策のロードマップを作成</li> <li>・周辺での活動団体や仲間を集め、社会実験等を行う等、研究成果が未来づくりに展開できる取組(自立的なまちづくり活動団体への成長を期待)</li> <li>・三保半島の魅力的な景観や保全活動を県内外にPR</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	海岸管理者である静岡土木事務所 公園管理者である静岡市 美しいしずおか景観推進協議会(静岡県景観賞の実行組織)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	県庁会議室の貸与(事前調整) 上記構成団体の紹介 まちづくりや海岸景観に関する専門家の紹介 静岡県景観賞インスタグラムでの絶景写真や取組紹介等

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	交通基盤部 都市局 景観まちづくり課 景観づくり推進班
電話番号	054-221-3490
E-mail	<a href="mailto:keikan-machi@pref.shizuoka.lg.jp">keikan-machi@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	永井 友子

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	提案課題
課題タイトル	東静岡駅周辺地区の文化とスポーツによる賑わい創出に向けた方策について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>東静岡駅周辺地区において、県と市が連携し、若者をはじめとする多彩な人々を魅了し、多様な交流と賑わいを生み出す「文化とスポーツの殿堂」の形成を目指している。</p> <p>当地区では、南口県有地東側への県立中央図書館の移転が決定しているほか、北口市有地には最高峰のプロスポーツや大規模コンサートが開催可能なアリーナについて市が誘致方針をまとめており、将来の賑わい創出に向けて、残る南口県有地西側を含めた各施設が連携しつつ相互に補完するような方策の検討が必要である。</p> <p>よって、利用者として想定される学生等からアイデアをいただき、現実的に事業へ反映させたいと考えている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>アンケート調査等により、賑わい創出のための対象者のニーズを把握。</p> <p>学生がプレイヤーとなり、南口県有地での活動やフィールドワークによる課題の整理及び若者の視点での活用アイデアの提案等を期待する。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>静岡市(企画局)</p> <p>(公財)静岡県文化財団</p> <p>東静岡駅周辺大学等</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>研究に係るゼミ活動、大学講義時等の県職員の随時参加</p> <p>グランシップ広場での賑わい創出イベントにおける活動フィールドの提供</p> <p>県庁会議室の無償貸与</p>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	スポーツ・文化観光部 政策管理局 企画政策課
電話番号	054-221-3612
E-mail	bunkakankou-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
5年度担当者	峯岸 浩二、佐藤 弥那子

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	提案課題
課題タイトル	高齢化社会における地域活性化策についての実践的検証		

課題の概要(背景や理由等)	<p>公営住宅は昭和40～50年代には、子供のいる世帯が多く地域活動が活性化していた。しかし、現在は子供の転出や高齢者の単身入居により、団地によっては高齢化率が非常に高くなり、草刈りや清掃などの地域活動が困難となっている。</p> <p>県では、健康・介護相談や困りごと相談を実施する県営住宅高齢者ふれあい生活支援事業や、見守り(安否確認)を実施する県営住宅入居者安心サービスを行っているが、各団地ごとの課題までは把握できていない。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により地域活動が困難となっている県営住宅で、その団地ごとの課題(草刈りや清掃の実態、イベントの実施状況など)を調査し把握する。</li> <li>・課題を踏まえた地域活性化策を検討し、自ら活動支援などを行い、地域の活性化を図る。</li> <li>・県の実施している事業について、聞き取りへの協力や、課題解決策の検討を行う。</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	県営住宅自治会、県住宅供給公社
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	フィールドワークの場となる県営住宅の選定や自治会への協力依頼などに県が関わるとともに、実践期間、当該団地の住戸を無償で提供する。

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	くらし・環境部 建設住宅局 公営住宅課 県営住宅管理班
電話番号	054-221-3085
E-mail	jutaku@pref.shizuoka.lg.jp
5年度担当者	山岡 広幸

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	提案課題
課題タイトル	自然系博物館(ふじのくに地球環境史ミュージアム)の認知度向上と活性化策		

課題の概要(背景や理由等)	<p>これからの博物館は、地域の多様な主体と連携・協力し、文化観光等の活動を図り、地域の活力向上に取り組むことが求められている。(改正博物館法:R5.4施行)</p> <p>ふじのくに地球環境史ミュージアムは、全国初の地球環境史をテーマとする博物館として、本年3月で開館8周年を迎えるが、今までの実績と課題を踏まえて、更なる認知度の向上・利用者の増加や、地域の活性化に繋がる取組を展開したいと考えている。</p> <p>こうした状況の中、大学生(若者)のアイデアを活かして、情報発信力の強化や、SDGsの視点を踏まえた若者向けイベント等の提案を受け、実施に向けて取り組みたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>①ミュージアムの認知度向上に向け、SNS等の活用をはじめ、様々な広報媒体の特性を活かした効果的な情報発信・広報手法の提案と実施</p> <p>②学生のアイデアを活かした、イベント等の提案と実施 (例:当ミュージアムの取組方針であるSDGsに関するイベント、学生と連携した若者向けイベント、来館者増や地域活性化につながるイベント、等)</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>(必要に応じ、以下の連携者等と意見交換を実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじミュースポーター(運営ボランティア)</li> <li>・NPO静岡県自然史博物館ネットワーク</li> <li>・ミュージアムインタープリター(展示交流員、地球家族会議の進行者)</li> <li>・その他日本平周辺の文化観光施設 等</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・ミュージアムの活動紹介(館のコンセプト、展示及び館内外活動の紹介、現状の広報手法やイベント実施状況の説明 など)</li> <li>・関連団体の紹介等</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	スポーツ・文化観光部 ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課
電話番号	054-260-7111
E-mail	<a href="mailto:museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp">museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	塚本 健次

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	提案課題
課題タイトル	豊岡地区における農村RMOの形成 ～定住人口を増やす取組について～		

課題の概要(背景や理由等)	<p>近年、中山間地域では、高齢化・人口減少の進行により、農業生産基盤のみならず、地域資源の保全や生活などの集落維持に必要な機能が弱体化している。このため、農家・非農家が一体となり、集落機能を補完する農村型地域運営組織(農村RMO)による地域コミュニティ機能の維持強化が求められている。</p> <p>磐田市の中山間地域に位置する旧豊岡地区は高齢化・人口減少が顕著な地域の1つである。一方で農業・自然・文化といった農村資源が魅力で、天浜線や新東名スマートICがあり交通の便が良いことから、地域外から人を呼び込むことで今後の発展が期待できる地域でもある。また、当地域では、「豊岡東地区環境保全協議会」が主体となって、旧豊岡地区を持続的に発展させていくための「地域再生デザイン」を構想しており、実施に向けたアプローチとして令和3～5年度に本事業により旧豊岡東小学校を拠点として活用するためのテーマや施設の在り方、地域資源の活用法等を検討してきた。令和6年度からは調査地域を拡大し、農村RMOの形成に必要な取組についての検討するとともに、農村振興や地域の発展に繋がりたい。</p> <p>県はこれらの農村振興活動を支援しており、企業・学生等のアイデアも頂きながら、より良い方策を検討したいと考えている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>旧豊岡地区を研究のフィールドとした活動の提案及び実施 (可能であれば、単年だけでなく複数年にわたる活動)</p> <p>豊岡地区で農村RMOを形成するための提案・検討。 定住人口を増やすための取組の検討。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>地域団体(豊岡東地区環境保全協議会、白壁館等) 磐田市商工会議所 磐田市 静岡県(県農地保全課、中遠農林事務所農村整備課) 等</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・関連団体の紹介</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	経済産業部 中遠農林事務所 農村整備課
電話番号	0538-37-2290
E-mail	<a href="mailto:nourin-chuen-nouson@pref.shizuoka.lg.jp">nourin-chuen-nouson@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	二橋 智美



## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県教育委員会	課題区分	提案課題
課題タイトル	高校生が国内に居ながらにしてできる国際交流		

課題の概要(背景や理由等)	<p>コロナ禍で中止されていたリアルな国際交流が、2023年度から本格的に再開されている。その一方で、急激な円安により、留学や海外研修、海外修学旅行等を実施する際の経済的負担が増している。</p> <p>そんな中、海外からの留学生受入は、国内に居ながらにしてできる国際交流として有効な手段と考えている。</p> <p>県立学校では一部の学校で留学生の受入事例(1ヶ月～1年程度)があるものの、寮やホストファミリーといった留学生の宿泊先の確保が課題となっている。寮のある学校は殆ど無い。共働き家庭や高齢世帯が増え、ホストファミリー探しも困難となっている。</p> <p>学校でホストファミリーを募集しても見つからないことも多く、ホストファミリー等の宿泊先を確保するための環境づくりが求められている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>①外国人留学生を受入れる際のホストファミリーを確保するための方策の検討。(寮でも可。高校生年代なのでアパート等での一人暮らしは不可。)</p> <p>②大学に来ている留学生との交流等、宿泊を伴わない国際交流や異文化理解の企画や、既存事業の周知方法の検討</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各高等学校</li> <li>・各大学</li> <li>・国際交流協会等の団体</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・高等学校の紹介</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	教育政策課
電話番号	054-221-3104
E-mail	<a href="mailto:kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp">kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	教育主査 服部 忠順

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県教育委員会	課題区分	提案課題
課題タイトル	高校生の「本県の特性を踏まえた探究活動を伴う留学」を実現する方策の検討		

課題の概要(背景や理由等)	<p>県教育委員会は、これまで実施してきた留学や探究推進の取組を強化し、国及び(独)日本学生支援機構の助成を受け、本県の特性を踏まえた探究活動を伴う留学を支援する「ふじのくにグローバル人材育成事業」を令和5～7年度にかけて実施する。(文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」拠点形成支援事業)</p> <p>生徒自身が主体的に留学計画を作成し、留学前に静岡県の魅力や課題について考察したうえ、留学先において本県の特徴を紹介する活動を行う。留学後には留学の魅力や留学で得た体験を所属校等で伝える活動を行うとともに、探究活動・異文化体験を通して、地域活性化の方法や自身の地域への貢献方法を考察したうえ、報告動画等を作成する。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>①高校生の探究および留学について、助言等をしていただける大学(ゼミ・研究室)や企業等の「見える化」</p> <p>②高校生が、自らの興味・関心に基づいた探究および留学を実現するために、適切な大人と繋がることのできる仕組みの構築</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ・研究室等</li> <li>・企業、各種団体等</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の提供</li> <li>・事業の説明、関連事業への案内 など</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	教育政策課
電話番号	054-221-3134
E-mail	<a href="mailto:kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp">kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	主査 野崎 憲太郎

## 県内大学ゼミ・研究室等に調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県教育委員会	課題区分	提案課題
課題タイトル	多文化共生型家庭教育プログラムの開発について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>静岡県では、全ての保護者が安心して家庭教育を行える社会づくりをめざして、家庭教育支援員の育成や家庭教育支援チームの強化、家庭教育ワークシート「つながるシート」の開発を行ってきた。また、交流会型家庭教育講座の開催を推奨し、保護者同士がつながる機会の提供を意図的に行ってきた。</p> <p>しかし、77.6%の園・学校に外国にルーツのある園児・児童生徒が在籍しているにも関わらず、多文化共生の観点で保護者をつなげる家庭教育支援は行ってこなかった。教材の開発も含め、外国にルーツのある保護者も安心して参加できる家庭教育支援の方法を検討する必要がある。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生型家庭教講座の開発 ⇒様々なルーツをもつ保護者が、子育てについて話し合い、つながりをもてる学習プログラムを開発する。</li> <li>・親子つながるシートの多言語化 ⇒誰もが安心して使用できるように、既存の「つながるシート」を多言語化したり、やさしい日本語化したりする。</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育支援学習方法改善委員会</li> <li>・各市町の家庭教育支援員及び家庭教育支援チーム</li> <li>・各市町の家庭教育支援事業所管課 など</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の提供</li> <li>・家庭教育支援学習方法改善委員会へのオブザーバー参加</li> <li>・交流会型家庭教育講座の視察 など</li> </ul>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	教育委員会社会教育課地域家庭班
電話番号	054-221-3115
E-mail	<a href="mailto:kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp">kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp</a>
5年度担当者	堀野